

県外からの皆さん

事故に気を付けて

セーフティドライブイン事業

ようこそ高知へ、交通事故に気を付けて安全運転を」と、国民休暇県・高知セーフティドライブイン事業が、四月三十日から始まり

ました。これは、瀬戸大橋の開通によって県外からの観光客が多くなり、交通の過密が予想されるなか、観

光客に安心して安全な旅をしてもらうとともに、国民休暇県、高知のイメージアップを図ろうと、県が高知県交通安全母の会連合会西

森律会長に委託して始めたもので、十市町村の連合会の皆さんが参加。四月三十日から五月二日ま



県外からの観光客に地場特産品を配布

ら九日までと九月二十三日から二十五日までの三回、高知東道路の南国インターチェンジの進入口にある観光案内板「はつきりくん」の前で、県外からの観光客に地場特産品を配って紹介、あわせて安心して観光を楽しんでもらえるようにと観光パンフレットや高知市内の駐車場の地図などを配布するものです。

三十日には、県や母の会などの関係者約三十人が参加し、

大阪などから来た三組の観光客も加わって開所式が行われました。式ではまず、中村副知事がこの事業の趣旨を説明、西森会長に委託状を手渡しました。それを受けて西森会長が、「県外の観光客に高知に来て良かったと思われるよう、笑顔を絶やさず、交通安全を呼び掛けていきたいと思えます」と決意を表明。早速通りかかった岡山などからの観光客に「ようこそ高知へ、交通事故に気を付けて」と呼び掛けていました。

日本海から太平洋まで 中国・四国横断 ゴールデンウオーク

米子市長のメッセーシが市長に手渡された



瀬戸大橋の開通を記念して、日本海から太平洋まで約三百キロを歩く「中国・四国横断ゴールデンウオーク」が行われ、四月二十九日に鳥取県米子市を出発した一行約五十人が、五月五日南国市に到着しました。

これは、香川県ワンダーフォーゲル協会などが、生きることの基本である歩くことによって、距離への挑戦とともに、人との触れ合いや自然との語り、歴史との出会いを体験してもらうと企画したもので、大阪や香川などから約二百三十人が応募。そのなかから五十人を抽選し、途中の一部参加者も含め百人余りが参加しました。二十九日の早朝、日本海を背に雨の降るなか出発、一路ゴールの

南国市へ向かいました。抽選にもれた人のためにもと全員が歩きぬくことを決意していましたが、途中やむなく四人が断念。足のもめや雨にたたられながらも五日の午後一時にはゴールの南国市久枝に到着し、小笠原市長らの歓迎を受けました。

解散式では、参加者の手で南国市長に松本米子市長からの「日本文化発祥の地米子市と夢とロマンの国南国市が今後あらゆる交流のもとに一衣帯水の間柄として其業することを願います」というメッセーシが届けられ、日本海の水を太平洋に。

参加者はとても三百キロを踏破したとは思えないほど元気一杯で、「太平洋が見えた瞬間、とても感激しました。途中疲れたことも終つてみれば忘れてしまいました」と喜びを語っていました。



ゴール目前(物部川堤防)